

タイに住む難民女性のための安全な仕事と収入—人権と女性の権利の問題

Subadhra Devi Rai さん (タイ)

安定した仕事に就き、収入を得ることは基本的な人権です。しかし、政治的、社会的変動のために、世界中のいたる所でこの基本的人権は守られていません。満足な収入や仕事がない辛さは誰でも経験しますが、その矛先はほとんどの場合、女性と子どもに向けられます。わたしがぜひともお伝えしたいのは、タイ・ビルマ国境の難民キャンプで暮らす、ビルマ(注1)から来た少数民族女性がおかれた経済状況と、その状況を打開するために、非政府組織 WEAVE (Women Education for Advancement and Empowerment) が、いろいろな少数民族女性組織と協力しながら取組んでいる能力開発、職業訓練、収入機会の創出などの活動についてです。

(注1) 1995年に軍事政府が、国名をビルマからミャンマーに変更した。しかし、軍事政権とその弾圧、人権侵害に抗議して、タイその他に住む多くのビルマ国民はビルマの名を使い続けている。ビルマの国民や女性と連帯して私も「ビルマ」の国名を使用していく。

タイに住む難民女性

いろいろな民族出身の女性たちが、9カ所の難民キャンプに住んでおり、中には1984年からいる人もいます*2。これらの女性とその家族たちは、国家平和開発評議会 (SPDC) がビルマで起こした政情不安と人権侵害を逃れるためにタイに来ました。SPDCに武器の運搬を強要され、断ると暴行を受け、殺されたりレイプされたりします。難民たちは、トラウマとキャンプ生活のせいで、さまざまな身体的、精神的疾患に苦しんでいます。女性は、DVや栄養不良、身体の不調、さらには国を離れたことや先が見えないこと*3から起こる精神的ストレスに苦しんでいます。これらの症状は、安定した収入やまともな仕事に就けないことでさらに悪化します。

(注2) **難民**：タイ・ビルマ国境の4州(チェン-ライ、カンチャナブリ・ラーチャブリー、メーホンソン、ターク)に9カ所の難民キャンプがあり、約14万人の公式登録難民が住み、なかには10年を超えて暮らしている者もいる。

移民：チェン-ライ、チェン-マイ、タークの3州に住む、約120万の登録移民のうち、905,881人がビルマ人の血を引く。これ以外に、送還を恐れ無登録で住んでいる者も多い。

国内避難民 (IDP)：4つの少数民族州(カレン、Karenni、シャン、モン)と2郡(東ペグー、テナセリム)に住む。恒常的な暴力と不安定さのため食糧確保ができず、深刻な栄養不良に悩む。

参考文献：「Images Asia」1997。「Migrating with Hope: Burmese Women Working in Thailand and the Sex Industry」、Images Asia(チェン-マイ)、タイ・ビルマ国境協会(TBBC)

2004年。「Internal Displacement and Vulnerability in Eastern Burma」、TBBC（バンコク）、ThanakaTeam 編、2000。「Burma More Women's Voices」、Altsean（バンコク）、ThanakaTeam 編、2003年。「Burma-Women's Voices Together」、Altsean（バンコク）、WEAVE（チェンマイ）2005。

（注3）今後3～5年間に、第3国もしくは、政情が改善されればビルマに送還される可能性がある。

（注4）タイでは、難民キャンプで生活している人びとは避難民に分類され難民とは認められていない。その移動や活動は制限されるため、難民キャンプ内の金銭の流れや仕事の種類は限られている。

働く権利 — WEAVE による所得創出と能力開発

難民キャンプのなかには、非公式ではありますが仕事があります。難民が運営する雑貨店、食品売店、仕立屋、手工芸品店などです（注4）。その他にも、国際 NGO がキャンプ内で衛生活動や社会復帰訓練をしており、そこに人工経済が形成されています。保健士、清掃員、教師や通訳として難民が雇われています。状況は不安定で、NGO が撤退すると自分たちは仕事も収入も失うという恐怖が常に難民たちにつきまとっています。キャンプ外での仕事には制限がありますが、季節的な農作業をすることがよくあります。同じように働く地元のタイ人より賃金が低いのがふつうです。こうした状況の中で WEAVE は、女性の収入ややりがいのある仕事に焦点を当てて活動しています。

WEAVE はさまざまな民族背景を持つ女性で構成されている地元の組織であり、ビルマからの少数民族の女性と協調して活動しています。WEAVE は 1990 年の設立以来、タイ・ビルマ国境の両側で活動する各組織を支援して、女性と子供のための保健衛生教材を民族のさまざまな言語で作成することを中心に活動しています。年を追うごとに WEAVE の活動内容は広がり、能力開発、早期児童教育、所得創出などが新たに加われました。難民女性の立場を改善することが地域全体の利益につながるという信念に基づいて、WEAVE の活動は多角化しています。

WEAVE は、縫製、織物、刺繍などの職業訓練を行い、少数民族の女性を支援しています。ここでは、それぞれ固有の文化が反映されたデザインの織物を作ったり、衣服を縫ったりすることを勧めています。また、タイ内外のいろいろな少数民族女性組織と協力して、できあがった品物を販売する市場を見つけ、確保する取組みも行っています。このように、難民女性に安定した働き口と収入をもたらすのが WEAVE の目標です。女性に安定収入があれば、野菜や果物や肉で食事内容を充実できるようになります。経済力がつけば、家庭

内のジェンダーに根ざした暴力をはね返す力がつき、民族組織や地域社会で指導的な役割を担う自信が持てるようになります。

WEAVE が行っている能力開発プログラムは所得創出のために重要な役割を果たしています。つまり、このプログラムにおいて、プロジェクトを管理させることで女性たちの能力を強化し、マイクロ・ファイナンスやマーケティングや製品ライン管理の知識と技術を身につける機会を女性に提供しているのです。この他、女性たちのグループに少額の資金を拠出し、このグループを支援して安定収入の道を手に入れるまで援助を行っています。

所得創出と能力開発という取組みを通して、WEAVE はこれまでずっと女性の人権問題解決に努力してきました。今後も少数民族女性、そしてその組織とともに活動を続けていくつもりです。